

VOL. 5
青森市

魅力ある講座の実践紹介！

「地域合同防災訓練」

今回は地域防災への取組について、青森市沖館市民センター館長の片岡光昭さんからお話を伺いました。特に東日本大震災以降、防災は重要な地域課題として注目されていますが、地域住民の意識高揚から防災技能の習得まで、決して容易な課題ではありません。沖館市民センターでは、どのような取組をされたのでしょうか。



地域状況から求められるもの

青森市沖館市民センターは、青森市市民センター条例により、市内11番目の市民センターとして、平成11年12月に開館しました。コミュニティ活動、健康増進、学習文化活動等の様々なニーズに対応する多目的施設として活用されています。センター近隣の23町会で、沖館市民センター「管理運営協議会」を組織し、各町会長全員に協議会の理事になっていただき、いろいろな御意見を頂戴しながら運営しております。

今回お伝えする「地域合同防災訓練」には、地域の地理的事情が大きく関わっています。この地域はむつ湾に面しており、また地域を川が横切っているため水害の危険性が高くなっています。実際、大雨の時には氾濫すれすれまで増水することがよくあります。また、すぐ近くには石油貯蔵タンクがあり、この地域の地盤なども踏まえ、万が一大地震に見舞われたことを考えると、地域防災に力を入れる必要がありました。一方で、町会の自主防災組織は、平成26年度頃までは4町会程度にしか作られておらず、地域住民の防災意識の高揚と自主防災組織を増やすことが喫緊の課題でした。

そこで平成27年度には大学教授をお招きし、ワークショップ形式で地域防災の課題を明らかにし、その解決策を考えました。そして翌28年度には、当センターが防災拠点となることを想定した「沖館地域合同防災訓練」を実施しました。

青森市危機管理課、消防署、日本赤十字社の協力を得ながら、地域住民の皆様に避難誘導、段ボールを使った避難スペースの作り方、非常食であるアルファ米の説明と炊き出し訓練を行いました。さらには、放水訓練、消火器訓練、AEDの操作等も行いました。

地域課題解決の方策としても

この訓練は参加者に大変好評で、「勉強になった。」「年に一度はこのような訓練をすると良いのではないか。」等の感想をいただきました。

事業成果としては、自主防災組織を立ち上げた町会が増えたことが挙げられます。実は自主防災組織の立ち上げは、決して容易なことではありません。組織として継続していくことはもちろん、その資材の保管場所等にも留意しなければいけません。そこを乗り越えて、組織数が増えたことは大変嬉しい限りです。



当日の様子から

(左：心肺蘇生法訓練、右：毛布を使った担架作り)

この地域に限らず、青森市の課題として、「防災」「健康」「介護」が挙げられ、各地の市民センター・公民館等で対応講座等を展開していることと思います。当センターでも、それらの内容に加え、趣味・教養等の分野を含めると40以上の事業を展開しています。また、講座後には定型様式でのアンケートを行い、常に成果と課題の把握に努めてきました。

当センターは、来年度20周年を迎えます。今後も地域の皆様の生涯学習の拠点として、運営して参ります。

【編集後記】「自主防災組織は、立ち上げもさることながら、その存続も大きな課題である。」とのお話が印象的でした。立ち上げ数が増えたことに満足するのではなく、常に地域住民の防災意識に刺激を与えていくことが公的機関の大きな役割であると学びました。(A)



《青森県総合社会教育センターシンボルマーク》

人づくりの拠点として、県民の生涯にわたる学習の輪が、和を持って限りなく広がっていくことを願いとしています。家庭、学校、地域社会が一体となる姿を表現するとともに、色を緑色とし、伸びゆく緑豊かな青森県を表しています。